

国内で初めて確認された園芸作物の新病害虫（平成8年～平成10年）

園芸試験場

1 取り上げた理由

宮城県内の野菜5作物（モロヘイヤ、メロン、シソおよびツルムラサキ：2病害）と花き3作物（ホワイトレースフラワー、ブルーレースフラワーおよびガーベラ）に、原因不明の8種類の病害が発生した。病原菌の同定を行ったところいずれも、国内で未発生の病害であることが判明したので、参考資料とする。

2 参考資料

1) 野菜に発生した新病害



a モロヘイヤ半身萎凋病(仮称)\*  
< *Verticillium dahliae* >



b シソ半身萎凋病(仮称)\*  
< *V. dahliae* >



c ツルムラサキ半身萎凋病(仮称)\*  
< *V. dahliae* >

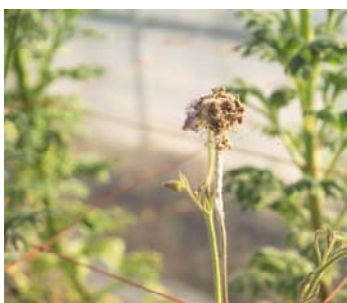


d ツルムラサキ菌核病(仮称)\*  
< *Sclerotinia sclerotiorum* >



e メロン炭疽病(病原菌追加)  
< *Colletotrichum orbiculare* >

2) 花きに発生した新病害



f ホワイトレースフラワー菌核病(仮称)\*  
< *S. sclerotiorum* >



g ブルーレースフラワー菌核病(仮称)\*  
< *S. sclerotiorum* >



h ガーベラ根腐萎凋病(仮称)\*  
< 有性世代: *Nectria haematococa*  
無性世代: *Fusarium solani* >

3 利活用の留意点

1) 表-1, 表-2を参照

2) ※新規病害を命名する場合, 学会, 研究会等に発表し, 論文または講演要旨として掲載後に日本植物病理学会「日本有用植物病名委員会」に申請する。審査後に日本植物病理学会報の病名目録に掲載されるまでは, 正式に病名として認知されないため仮称として取り扱われる。

(問い合わせ先: 園芸試験場環境部 電話022-383-8132)

#### 4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間 地域農業改良普及センター及び農家等からの病株の持ち込み診断依頼  
平成8年～10年

2) 参考データ

表－1 野菜に発生した新病害

	病名	発生時期	病徴	留意点
a	モロヘイヤ 半身萎凋病 (H8)	栽培全期間	初め片側の葉が萎凋し、黄化する。のちに全葉萎凋、黄化し褐変後枯死する。導管部は、片側淡褐色～褐色に変色する。センチュウ類と本病との混発により被害は増大しやすい。	本病害は土壌伝染し、多犯性病害であるため、発生地では、土壌消毒をする。発生地により菌群が異なるため、他の作物を栽培する際は、菌群を明らかにし、非感受性作物を栽培する。
b	シソ半身萎凋病 (H9)			
c	ツルムラサキ 半身萎凋病 (H10)			
d	ツルムラサキ 菌核病 (H9)	栽培全期間	葉、葉柄、茎に発生する。初め暗緑色～軟化腐敗し、白色綿毛状の菌叢を呈し、後に部分的に隆起し、白色～黒色の菌核を茎内部および表面に形成される。一部は地表面に落下する。	梅雨、秋雨時期の多湿条件時に発生が多く、一度発生すると急速に蔓延する。
e	メロン炭疽病 (H9)	栽培全期間	葉、葉柄、茎、果実に発生する。葉には初め白色の小斑点が生じ、後に褐色、円形～不整形の病斑が生じ乾燥後裂開する。葉柄、茎には灰白色～黄褐色、紡錘形の浅く陥没し、鮭肉色の分生子塊が認められる。果実は、初め褐色の斑点後拡大し、褐色～黒色に変色後鮭肉色の分生子塊が認められ裂果する。	露地栽培の梅雨、秋雨時期の降雨時に発生が多い。登録農薬があるので、降雨が多い場合は必ず使用する。本病は、ウリ科作物全般に発生する。

表－2 花きに発生した新病害

	病名	発生時期	病徴	留意点
f	ホワイトレースフ ラワー菌核病 (H9)	栽培全期間	花、花柄、葉、葉柄、茎に発生する。初め暗緑色～軟化腐敗し、白色綿毛状の菌叢を呈し、後に部分的に隆起し、白色～黒色の菌核を茎内部および表面に形成される。一部は地表面に落下する。	梅雨、秋雨時期の多湿条件時に発生が多く、一度発生すると急速に蔓延する。
g	ブルーレースフ ラワー菌核病 (H9)			
h	ガーベラ 根腐萎凋病 (H10)	栽培全期間	苗（育苗時期）や本圃（定植後～収穫時期）で発生する。花、葉柄、クラウン、根に発生し、奇形花や萎凋枯死の症状が認められる。クラウン部や根部は黒色褐変症状する。地際部や根部に橙赤色の子のう殻および淡桃色の分生子塊が認められる。現在、養液栽培圃場でのみ発生が確認されている。	本病の発病は遅く、腐生性が強いいため、生育期後半の株疲れ時に発生が多い。高温多湿は、発病に好適条件のため、伝染源となる罹病株や被害残差を撤去し、乾燥状態にする。

3) 発表論文等

- a : 第52回北日本病害虫研究会発表会(平成11年), 北日本病害虫研究会報 第50号投稿中(平成11年)
- b : 第52回北日本病害虫研究会発表会(平成11年), 北日本病害虫研究会報 第50号投稿中(平成11年)
- c : 第52回北日本病害虫研究会発表会(平成11年), 北日本病害虫研究会報 第50号投稿中(平成11年)
- d : 平成10年度日本植物病理学会東北部会発表(日本植物病理学会報 第64巻 第6号 P611(講要))
- e : 平成10年度日本植物病理学会大会発表(日本植物病理学会報 第64巻 第4号 P432(講要))
- f : 平成10年度日本植物病理学会東北部会発表(日本植物病理学会報 第64巻 第6号 P611(講要))
- g : 平成10年度日本植物病理学会東北部会発表(日本植物病理学会報 第64巻 第6号 P611(講要))
- h : 第52回北日本病害虫研究会発表会(平成11年), 北日本病害虫研究会報 第50号投稿中(平成11年)